



— 発行者 —
福島県公立学校退職校長会
福島支部長 鈴木昭雄

— 編集広報部 —
— 題 字 —
第122号 高橋 藤園

浜通りの被災地を尋ねて



福島県公立学校退職校長会
福島支部長 鈴木昭雄

「相馬市伝承鎮魂祈念館」

今年六月に、私が鎌田地区の民生委員として関わらせていただいている高齢者で構成する「ふれあいサロン」の方々との研修視察で、福島市社会福祉協議会のマイクロバスを利用し、大震災後の復興の現状を知り、犠牲者への鎮魂も兼ね、当館を訪ねた。

当館は、東日本大震災によって失われた相馬市の「原風景」を後世に残し、遺族の心の拠り所としていくとともに、震災前の相馬市の姿を知っていただくための施設で、館の隣に犠牲になった四百五十八名の方々が記名されている慰霊碑があり、また、裏面の碑文には、『平成二十三年三月十一日午後二時四十六分、マグニチュード九.〇の地震が発生した。(中略)相馬市では震度六弱の超巨大地震であつた。』

約一時間後、高さ九メートルを超す真つ黒な大津波が容赦なく集落を破壊し家々を呑み込みにながら海岸から約四キロメートル先まで流れ込んだ。(後略)と記載されている。

同行した方々とともに、改めて哀悼の真を捧げた。

「震災遺構 浪江町立請戸小学校」

同じく七月某日、県内の学校では唯一遺構として残された同所を訪れた。私が大震災後に浪江町に入るのは、初めてであった。

請戸小学校(海拔約三〜四メートル)は、海岸から約三百メートルのところであり、大震災当日は津波が校舎の二階床上まで到達したということであつた。

一階では、一年生から三年生までの教室や職員室、保健室等の特別教室やランチルームがほぼ震災当時のまま保存・展示されているが、教室と廊下の間の壁は朽ち落ち、天井も折曲り、泥をかぶったオルガン、乱雑に散らばっている机、いす、床が陥没した体育館など、改めて大地震、大津波の脅威、すさまじさを思い知らされた。二階には四年生から六年生の教室がそのまま残されているが、六年生の教室黒板には、立ち入り可能になってから、母校を訪れた卒業生などの寄せ書きやメッセージなどが寄せられていた。

ロメートル離れた大平山のふもとにつき、入山し(十五時十五分)、奇跡的に全員(児童八十二名、教職員十三名)無事避難することができた」というものである。

ちなみに、津波の請戸小学校への到来は十五時三十八分、数分後に大平山に到達している。その詳しい内容は、絵本「請戸小学校物語」大平山をこえて」に描かれており、小学校内の見学ルート内にも掲示されている。

絵本の最後に次のような一節があるが、いつまでも心に留めておきたいと思う

『地震やその他の災害は、いつあなたのもとにふりかかるかわかりません。あなたにとっての大平山はどこですか。』

「当時通っていた児童九十三名(うち一年生十一名は帰宅していた)」は、教職員の迅速で的確な判断(十四時五十四分避難開始)と児童の協力(上級生が下級生の手を引き避難等)により、学校から西に約二キ

ロメートル離れた大平山のふもとにつき、入山し(十五時十五分)、奇跡的に全員(児童八十二名、教職員十三名)無事避難することができた」というものである。



相馬市伝承鎮魂祈念館協の慰霊碑



震災遺構浪江町立請戸小学校

～2階バルコニーに津波到達点表示が見える～

今、小学校では

福島地区小学校長会 会長 逸見健二
(福島市立飯坂小学校長)

今年度の福島地区小学校長会は、中野小が飯坂小に、水原小が松川小に統合し、昨年度の四十七校から二校減の四十五校の会員で組織されています。

過去三年間は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う対応のため、学校経営・教育活動において、多くの制約と苦難がありました。五月より感染法上の位置づけが五類に移行したことに伴い、各校においては、GIGAスクール構想の下で生み出されてきた多様な教育実践の工夫を取り入れながら、ポストコロナの教育活動の充実に向けた取り組みを推進しています。

福島市では、全小学校が参加し、四年ぶりに従来の市街地のコースで、鼓笛パレードが実施されました。子どもたちは力強い堂々とした演奏・演技を披露し、多くの市民の皆様にご覧いただき、希望を届ける場となりました。地区校長会も、コロナ禍以前のように、定例会、方部研修会等を参集型で開催しています。

また、七月上旬に山形市で開催された東北連小山形大会には三十一名が参加し、八月上旬には、四年ぶりに福島県小学校長会研究協議会が会津若松市で開催され、全会員が参加し、研修を深めることができました。十月には全連小東京大会があり、十一名が参加する予定です。地区校長会においては、大会や研修会等を通して学んだことを全会員で共有するとともに、次に述べる学校課題などに対して、会員が結束して取り組んでいきたいと考えています。

現在、学校においては、確かな学力の育成、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実、いじめ・不登校などの生徒指導上の問題への対応、虐待や貧困、ヤングケアラーの問題への対応、特別支援教育の充実、働き方改革の推進、新採用教員を初めとする教員の指導力の向上、教員・講師等の人材確保、教頭やミドルリーダーの人材育成の問題など、複雑かつ多様な課題に直面しています。

特に、慢性的な教員や講師不足は、深刻かつ喫緊の問題であり、学級担任が配置されない、産休・育休・病休枠が埋まらないなどの状況が見られます。また、教員の指導力向上のためには、校内外の研修を充実させていくことはもちろんのこと、今年度から始まった『研修履歴を活用した対話に基づく受賞奨励』について、地区校長会で研修を深め、教員の指導力や授業力の向上につなげていく必要があります。

いじめについては重大事態に至らぬよう、未然防止、早期発見、早期解決にどう取り組んでいくか、不登校については新たな不登校を出さないための組織的な対応をどう進めていくかが課題であります。

以上の課題解決に向けて、今後、地区校長会において、研修を深め、校長の資質向上に努めていくとともに、各校においては、福島市の未来を切り拓く健やかでたくましい子どもの育成に向けて、教職員一丸となって努力してまいります。

退職校長会の皆様には、今後とも御指導・御鞭撻の程、どうぞよろしくお願いいたします。

福島県公立学校退職校長会第五十七回県大会は令和元年度に福島支部で開催以来、四年ぶりの通常開催となり、全県から二百三十名、福島支部からは十五名が参加し郡山市で開催されました。

午前の部では、富士寛樹大会会長より、「四年振りに通常開催することができた。新型コロナウイルスは社会・教育上に大きな影響を与え、ウクライナの侵攻など厳しい時代を迎えている。また、定年制延長による課題もある。現代の教育現場へそれぞれの立場で支援をしよう。」と会長挨拶があり、安積国造神社宮司安藤重様より「近代日本の礎 安積良斎」について講演を頂きました。

午後の部は福島・南会津・相馬の三支部より体験発表があり、

宍戸仙助氏 支部を代表し体験発表 ～県退職校長会 郡山大会～



発表する宍戸氏

クリーンに映し出される映像と情熱的なお話に耳を傾け聴き入りました。その後、大会宣言を採択し閉会しました。なお、来年度は県北地区・安達支部での開催が予定されています。



ふれあい広場

― 方部会員紹介 ―

五年先の

子供たちや学校を

渡利 C 高橋 正之

退職を機に川俣町教育委員会
にお世話になって、六年目とな
りました。お声掛けいただいた
当時は、小学校再編の動きもあ
り、佐久間裕晴教育長のお誘い
に対して、少しでもお役に立て
れば、という淡い思いで、同級
生の佐々木光政さんと一緒に指
導主事として務めさせていただ
いております。

この間、学校を取り巻く環境
がみるみるうちに変わりました。
コロナや保護者対応も含め、学
校現場は、急激に変化する時代
の要請と新たな課題への対応で、
大変な日々を送っています。

特に、「Society5.0時代」の到
来と、新型コロナウイルスの感
染拡大に伴い急速に整備が進ん
だGIGAスクール構想による
一人一台端末など、学校のICT
活用環境は大きく変化しま
した。

川俣小学校の四学年外国語
活動では、五名のゲストティー
チャーと英語を使って会話をす
る活動と、二次元コードをタブ
レットで読み取って学習する活
動とがあり、自分で計画を立て
て学習を進めていました。

子供たちが使用している教科
書にも二次元コードがあり、今
後、デジタル教科書も段階的に
導入される予定です。

今年度の全国学力学習状況調
査では、全国での授業における
デジタル端末の活用状況は六割
以上となり、家庭への持ち帰り
も増加しました。川俣町でも昨
年十月からデジタルドリルを導
入し、家庭への端末の持ち帰り
もできるよう整備しました。

夏休みに入り、町の中学三年
生で希望する生徒を募って、個々
の学力に応じた学習会を開いて
います。校長で退職された数学
の先生二名と、国際交流協会な
どから推薦いただいた英語の先
生三名をお願いして、二つの教
科を四日間ずつ自分のペースで
学習しています。

講師の先生方の生徒への言葉
かけや個に応じた適切な指導、熱
い思いのお話は子供たちにとつ
て得難い時間だと思えます。

初日、会場の川俣中学校に行
くと、階段の登り口のホワイト
ボードに先生の温かい言葉が書
かれていました。受付には数名
の先生方がいて子供たちに声掛
けをしていました。次の日もそ
の次の日も朝と帰りには新しい
言葉がホワイトボードに書かれ
ていました。「暑いけどがんばっ
て。」「少しでも『分かった』を
増やそう。」「明日で最後。自分
の苦手を解決しよう。」

学校教育のデジタル化は避け
ては通れない流れだと思えます。
しかし、これまで通りの血の通っ
たかわりやアナログのよさや
大切さも実感しています。

現在、川俣町振興計画の改定
に伴い、教育委員会で教育振興
基本計画の改訂を進めています。
「これから五年先の子供たちや
学校をイメージして、(未来に)
責任を持って作成しましょう。」
計画を見直すにあたって、教育
長からお話がありました。

学校現場の大変さや、単発な
課題への対応だけでなく、未来

に向かつて先生方や子供たち、
地域や社会が幸せや生きがい
を感じられる教育を創造してい
くことが大切なのだと思います。

賀寿万歳

中村正直先生宅訪問

中村正直先生の賀寿祝をお届
けに五月八日訪問しました。

部屋に飾られた市民作品展特
別賞の賞状について尋ねると、
自分が作った物だと絵皿、壺を
戸棚の上から取り上げて見せて
くださいました。

さらに会友誌も見せていただ
きました。「陶游会」を結成して
活動された平成六年から二十五
年までの記録がまとめてありま
した。三春にあった窯の前で待
つ人々、地域の文化祭等へのそ
れぞれの出品作品、県外へも出
かけた研修旅行、小中高の先生

「不易と流行」を胸に内容を整理
するなど、自分の経験も踏まえ
ながらみんな考えてたいです。

方や奥さまと多くの仲間の写真
がありました。

現在、奥さまの写真の傍らに
は、先生が作られた花瓶、花立
には庭の花が供えられ、穏やかな
生活をされている様子でした。



中村先生(左)と鈴木支部長(右)

米寿を迎えられた

会員の皆様

(昭和十二年生まれ)

- 南沢文 A 齋藤 正 寛様
- 清水 A 壺岐 武 照様
- 笹谷 B 小松 榮様
- 飯坂 B 齋藤 壽様
- 北部 B 松淵 四 郎様
- 御山 長久保 宏 人様
- 蓬萊 北原 正 三様
- 北部 B 高橋 正 二郎様
- 笹谷 B 深澤 一 榮様
- 東部 A 大槻 高 仁様

